



東京ヴェルディ ESG ポリシー

2026年2月1日、東京

東京ヴェルディは、東京都を本拠地とするプロサッカークラブであり、現在、日本のトップカテゴリーである J1 リーグに所属しています。1969 年に創設され、読売サッカークラブの系譜を受け継ぐ日本サッカー界の歴史あるクラブの一つとして、J リーグや天皇杯をはじめとする国内タイトルを獲得してきました。クラブは、「**挑み続け、感動を超えろ。WE ARE TOKYO VERDY**」という明確な価値観と目標を掲げ、以下の姿勢のもとで活動しています。

- 創設以来ヴェルディが大切にしてきた**パイオニア精神と高い志を持ち、主体的に行動すること**
- 自らの信念の実現に向けて**挑戦を続けること**。そして、サッカーやスポーツには喜び、怒り、哀しみ、楽しさといった人間のあらゆる感情を引き出し、人々に単なる感動を超える体験をもたらす力があることを認識し、その価値を追求すること

東京ヴェルディは、ESG 戦略の中で定めた短期・中期・長期の目標を達成するとともに、気候変動の緩和に貢献し、社会的・経済的インパクトを高めるため、イベントの持続可能な運営に関する国際規格である ISO 20121:2024 の原則および要求事項を採用し、国際的に認知されたサステナビリティ・マネジメントシステムを導入することを決定しました。この決定により、東京ヴェルディは、ISO 20121:2024 規格および本方針、ならびに「4.5 Mission Statement_Tokyo Verdy」に示された以下の価値観の実践を推進していきます。

- 責任ある運営 (Stewardship)
- 多様な人が参加しやすい環境整備 (Inclusion and accessibility)
- 誠実さ (Integrity)
- 透明性 (Transparency)
- 関係者の参加 (Participation)
- 将来にわたる価値の継承 (Legacy)

東京ヴェルディは、クラブのサステナビリティ施策を継続的に向上させることを目的として、ESG (環境・社会・ガバナンス) フレームワークを導入しています。このアプローチのもと、クラブは以下の取り組みを推進していきます。

環境

- **CO2 排出量の削減** - クラブ活動に伴うカーボンフットプリントの削減に向けて、長期目標および行動計画を策定します。
- **資源効率の向上** - エネルギーおよび水資源の長期的な使用量を削減するとともに、それらの効率的な利用を推進します。
- **サーキュラーエコノミー** - クラブ活動および運営に伴って発生する廃棄物について、サーキュラーエコノミーの4R原則（Reduce、Reuse、Repair、Recycle）に基づき管理します。
- **物流・輸送** - 不要なCO2排出や非効率を最小化することに重点を置いて物流活動を計画・運営するとともに、可能な限り環境負荷の低い持続可能な移動手段を積極的に推進します。また、ファン・サポーターに向けても、環境負荷の少ない移動手段を促進します。
- **プラントベースおよび環境負荷の低い食品の提供** - 倫理的な食の選択に沿った、環境負荷の低い食事の選択肢を確保します。
- **生物多様性の保全** - 多摩川における生物多様性を守り保全するため、啓発活動、清掃活動、地域コミュニティの参加促進に取り組みます。

関連する持続可能な開発目標（SDGs）：SDG 7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDG 12「つくる責任 つかう責任」、SDG 13「気候変動に具体的な対策を」

社会

- **公正な労働環境の維持** - 従業員が最大限に能力を発揮できる、公平で包摂的な職場環境を維持します。
- **教育・研修** - 平日および試合開催日において、学校、大学、自治体、地域コミュニティと連携し、サステナビリティに関する教育プログラムやワークショップを推進します。
- **グラスルーツ活動** - 子どもや若者を対象としたグラスルーツプログラムやサッカースクールを実施し、健康、栄養、スポーツマンシップ、サステナビリティについて学ぶ機会を提供します。
- **インクルージョン** - Green Heart Project を通じて、試合観戦を希望するすべてのファン・サポーターにアクセシビリティを確保できる、包摂的な環境づくりを推進します。
- **地域へのインパクト** - 東京都内の市区町村および東京都全体において、直接的・間接的な経済的・社会的インパクトの創出を推進します。

関連する持続可能な開発目標（SDGs）：SDG 3「すべての人に健康と福祉を」、SDG 4「質の高い教育をみんなに」、SDG 5「ジェンダー平等を実現しよう」、SDG 8「働きがいも経済成長も」、SDG 10「人や国の不平等をなくそう」

ガバナンス

- **国際条約の尊重** - 責任ある事業活動の推進と、人権および子どもの権利の尊重強化を目的とする国際条約や各種ガイドラインを尊重します。

- **対話とステークホルダー・エンゲージメント** - 従業員、選手、育成組織、サプライヤー、パートナー、行政・公的機関、日本サッカー協会 (JFA)、J リーグ、ファン・サポーター、メディア、放送事業者、観客、非営利団体、地域コミュニティなど、多様なステークホルダーとの間で ESG に関する対話を推進します。
- **法令遵守** - クラブのすべての活動に適用される環境、労働、安全衛生に関する法令を完全に遵守します。
- **持続可能な調達** - 中期的に、サプライヤーおよび製品・サービスの選定プロセスにおいて、品質に加え ESG への影響評価を組み込んでいきます。可能な限り使い捨て資材の使用を回避し、天然資源の消費を責任ある形で管理することを重視します。
- **継続的改善** - 年次での実績報告および得られた知見の共有を通じて、継続的な改善に取り組みます。

関連する持続可能な開発目標 (SDGs) : SDG 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、SDG 11「住み続けられるまちづくりを」

東京ヴェルディの ESG 方針は、気候変動の緩和を促進し、クラブが生み出す社会的・経済的インパクトをさらに高めるため、具体的なアクションプランを通じて実行されます。

東京ヴェルディ株式会社

中村 考昭

代表取締役社長